■市民が主役になって地域をつくり、交流を楽しむまち

●高齢者支援

「健康で活き活きと、住み慣れた地域で自己実現できる、高齢者が輝くまち」を基本理念とした第4期事業計画（白石市高齢者保健福祉計画および第4期介護保険事業計画）の最終の年です。環境の整備や介護予防を主とした自立への支援と権利擁護の推進に努めます。

高齢者世帯や一人暮らしの高齢者が自立した生活をできるだけ継続できるように、「生活サポート事業」や「介護予防教室」を実施します。

また、「ほっときゃっするパス」サービスや「生きがいデイサービス事業」による福祉の郷構想を推進し健康寿命の延伸を図ります。

高齢期になっても自己実現と社会参加を促進するため、老人クラブ活動やシルバー人材センター事業の支援を引き続き行います。

●障がい者支援

平成21年3月策定の白石市障害福祉計画に基づき、障がい者の自立に向けた体制の整備に引き続き努めます。

●地域医療の確立

市民の健康、生命にかかわる安心、安全を保証するため、公立刈田綜合病院の経営健全化を支援するとともに、白石市医師会と連携した地域医療ネットワークの拡充に努めます。

●健康づくり支援

国民健康保険の健全な運営を図るため、収納率の向上に努めるとともに、特定健康診査、特定保健指導や平成22年度から開始した国民健康保険被保険者の「人間ドック費用助成事業」を継続し、市民の健康増進を目指します。

●市民活動の支援

「やる気応援事業」を継続し、市民活動ネットワークの輪を広め、まちづくりを推進します。

また、デジタルコンテンツを活用した地域づくり活動支援として、白石市のキャラクター「こじゅうろうくん」や「ボチ武者こじゅーろう」、アニメ「白石の妖精ぴち」などを活用するとともに、ホームページなどでの情報発信を行います。

さらに、道路の清掃などのボランティア活動に意欲を持つ地域住民や企業の方々と行政とのパートナーシップによる「しろいしサンキューロード・プログラム」を継続実施し、住民参加のまちづくりや良好な道路環境づくりを図ります。

登別市、海老名市やハーストビル市との姉妹都市交流、札幌市白石区との友好都市交流は、白石市姉妹友好都市交流協会、白石市国際交流協会を中心に、次代を担う青少年のスポーツ・文化活動の交流親善や国際感覚豊かな青少年を育成する事業を展開します。

●地域コミュニティの活性化

指定管理者制度に基づき地区公民館の管理運営を行っているまちづくり協議会が行う文化・スポーツ・生涯学習などの地域コミュニティ活動に助言支援を行い、活性化を図ります。

さらに、第五次総合計画の地域計画において各地区が設定した「まちづくり宣言」を実現する具体的な支援方策や「まちづくり交付金」などの資金的支援の制度設計に着手します。

「市民が主役」

市民が主役になれる舞台を準備していきます。

市民が自らの夢の実現や志をもって主体的に地域の課題解決に取り組む地域づくりを支援していきます。

また、やる気応援事業やコミュニティ強化支援を足がかりとして、包括的なまちづくり協議会など、新たな公共の創造に取り組みます。

「交流を楽しむ」

市民・企業・団体・NPO・行政などが協働しやすい環境を整えていきます。

また、交流ネットワークから新たな発見と創造が生まれ、地域づくりの醍醐味や楽しみを実感できる、成熟したパートナーシップの構築を目指します。

■産業の活力を生む新しい価値を創造し続けるまち

「新しい価値」

今ある地域資源を最大限に活用し、農林業や商業、工業、観光等の地場産業を活性化し、地域の雇用の維持・拡大を図っていきます。

また、業種の垣根を越えて、「強み」や「弱み」を補完し合い、切磋琢磨しながら新しい価値を創造し、市場形成と産業活性化に取り組みます。

「創造し続ける」

若者が魅力や働きがいを感じられるビジネスモデルを開発し、モノづくりや観光と結び付けて情報発信し、地産地消・地産外消を展開することにより、新たな白石のイメージ形成やブランド構築につなげていきます。

●定住化の促進

「白石市定住促進奨励金交付事業」のほか、平成21年度から開始した「白石市転入者等支援市営住宅補助金交付事業」、「白石市新婚家庭家賃補助事業」、「白石市営住宅第3子世帯優先入居制度」の3事業、平成22年度から開始した「企業立地等に伴う転入者支援補助金交付事業」も、定住・転入促進に効果が出ていることから継続して実施します。

さらに、空き家情報やイベント情報、白石城や武家屋敷など歴史的、文化的魅力をホームページやマスメディアを通じて発信し、定住化の促進、交流人口の拡大、地域の活性化を図ります。

●雇用の確保

「緊急雇用創出事業」、「ふるさと雇用再生特別基金事業」、「重点分野雇用創出事業」、「地域人材育成事業」を通して、短期の雇用・就業などの機会を創出・提供します。

●中心商店街の活性化

地元商店組合などが行う中心商店街活性化に関する事業などに対し、商店街活性化対策助成金を活用するなど、商工会議所との連携を図りながら、賑わいの創出を支援します。

また、「中心市街地の賑わいづくり研究会」などが行う商品開発提案などの地域活性化策を支援します。経済対策は、中小企業振興資金における融資限度額2,000万円を維持し、保証料の全額補給を継続します。

●農林業の振興

本市の農業従事者は、全就業者の6・4㌫を占め、農業は本市の重要な基盤産業です。しかし、農業所得の減少や離職者の増加、また、担い手の減少・高齢化など、さらには有害鳥獣の被害により農地の荒廃に歯止めがかかりません。

これらに対応すべく、地域農業の活性化を支援する「地域農業いきいき推進事業」を継続して実施し、地域農業の独自性・多様性を醸成させることで、新しい形の農業を育成します。

また、農業者の所得向上を目標に、農畜産物の販路拡大を行えるよう、農畜産物直売所に対する支援策を展開します。

さらに、農畜産物の流通・取引が国際的に標準化されようとしている中、農畜産物の販路拡大が、自身の高付加価値化や新たな流通体系構築へとつながり、6次産業化の推進へと発展できるよう、宮城大学をはじめ、農業関係者・関係機関との連携強化を図り、産業としての農業の再興を図ります。

野生鳥獣による農畜産物への被害が拡大していることから、持続的な農業振興を図るため、「農林作物鳥獣害防止対策事業」を継続実施します。

●製造業の振興

TVアニメ「戦国 BASARA 弐」より
©2010 CAPCOM/TEAM BASARA

民間企業と協力し、温麺など伝統産品のパッケージにアニメやゲームのキャラクターとして人気の高い片倉小十郎公をデザインした商品開発の支援を行います。

また、白石城、小十郎プラザなどでの販売やインターネットを活用した情報発信を通じて、新たな購買層を創出する取り組みを支援します。

■主な事業　緊急経済対策雇用創出関係

離職などを余儀なくされた非正規労働者、中高年齢者などに対して、次の雇用まで短期の雇用・就業などの機会を創出・提供するなどの事業を実施。これらの方の生活の安定を図るとともに地域の雇用再生のために、地域求職者などを雇い入れて行う雇用機会を創出する事業を実施し、地域における継続的な雇用創出を図ります。

●緊急雇用創出事業
事業費：2,809万9千円
介護予防等強化事業など9事業
新規雇用者数　33人

●ふるさと雇用再生特別基金事業
事業費：1,512万6千円
観光コーディネーター育成事業など4事業
新規雇用者数　8人

●重点分野雇用創出事業
事業費：7,612万6千円
アニメーション作品制作による観光および地域振興事業など7事業
新規雇用者数　39人

●地域人材育成事業
事業費：3,765万円
介護雇用プログラム事業など2事業
新規雇用者数　14人

●市場跡地活用整備事業補助金
事業費：2,500万円
出荷が困難となった中小農業者を救済するために、特定非営利活動法人小十郎まちづくりネットワークが市地方卸売市場跡地を整備し、直売所などの運営を行います。
市地方卸売市場跡地を整備する費用の一部を当該法人に助成し、農業を中心とした市内産業の振興を図ります。

●住宅リフォーム（ほっと住居）補助金
事業費：500万円

住宅の安全性や耐久性、居住性の向上と市内住宅関連企業を中心とする地域経済の活性化に資するため、市民が所有し自ら居住する住宅を、市内の施工業者を利用して修繕工事などを行った場合に、その経費の一部を助成します。